

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

617-450

事務事業名	里山整備活動支援事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	産業経済部	課等名	林務課		包含する細々目	1	6	2	2	27	2	600
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり											
施策	52身近な自然と生活環境の改善											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要						
		事業期間	17	年度～	年度	関連計画 条列等						森林・林業基本法、飯田市森林整備計画 未利用木質資源活用推進事業

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	市民 集落周辺の里山林(竹林含む)	飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度 以前に終了 した終了 年度とする	
			107844	107000		
		集落周辺の里山林	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
			200			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
里山林整備により、荒廃した里山林の保全 管理と有効活用が図られる	活動人数(人)	18目標	180	最終目標		
		18実績		19目標	180	
		23目標	180	23実績		
	活用整備された里山林(箇所)	18目標	3	最終目標		
		18実績		19目標	3	↑
		23目標	3	23実績		↑

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	放置荒廃して整備の遅れた集落周辺の里山林において、地域住民等による共同作業や森林所有者自らが行う里山林整備(間伐等)を支援する事業。	地域住民が活用及び保全管理する森林における広葉樹や竹林等の整備(間伐、不用木の除去、植栽、つるきりなど)と、それに付随する歩道や作業道の整備に対する補助金交付	補助金交付団体数	0
	18年度の実績			
	19年度計画	地域住民が活用及び保全管理する森林における広葉樹や竹林等の整備(間伐、不用木の除去、植栽、つるきりなど)と、それに付随する歩道や作業道の整備に対する補助金交付特に課題となっている竹林の整備について、モデル実証事業(展示林)を実施する。	補助金交付団体数	3

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源		600
事業費計(A)	0	600	
人件費	正規職員所要時間	18年度 200	19年度 200
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	715	715
	トータルコストA+B	715	1,315

特定財源内訳や補足事項	里山整備実行支援対策事業(県3/10～4/10) 県単間伐対策事業(県3/10)H18から4/10
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	水や緑が守られ増える	身近な自然は守られていると感じる市民の割合 %	現状値		19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	65
	市内の河川の水生生物の分布数 種		現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	9	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
里山林の多くは雑木林であり、新炭や山菜採取等広く利用されてきたが、燃料革命や生活様式の変化等により、現在ではほとんど利用されなくなり、放置され荒廃した山が多くなってきている。特に集落周辺の里山林は自然環境の保全や動植物の生息など生態系の維持に大きく寄与していることから、地域で保全維持活動の推進を図り、整備する必要があるため		地域や市民自らが森林(里山林)保全に関わり、活動するための支援について要望がある。特に竹林の整備に対する助成制度要望がある。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由) 里山林を保全管理することで昔から生活や生産活動に貢献していた。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由) 自然環境や市民生活に影響があることを広く市民や地域に認識されることで活動がさらに進めば向上する。さらに、未利用の里山資源を活用する仕組みや人材育成、誘導が推進されれば向上する。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由) 里山整備は生活様式の変化から放置されつつあり、荒廃が進むと自然環境の悪化につながる可能性がある。
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 里山整備は身近な自然としての保全管理について地域の活動が必要。また、活動での資源の有効活用することも重要		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由) みどりの景観整備事業
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由) 里山の公益的機能を発揮させるために、その施策を講じる責務がある		効率性 評価	成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由) 市の地域に居住する者に受益がある。

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	実施年度 〃	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 集落農地の周辺には未活用の竹林が数多くあり、これらの有効活用が課題となっていた。そのためH17実施の竹林所有者アンケートの結果に基づき、H18施策について検討した。県の破砕機を利用した竹林整備などの動きが出てきていることから、そうした部分へのバックアップを考えたい。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	広葉樹の利活用	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	